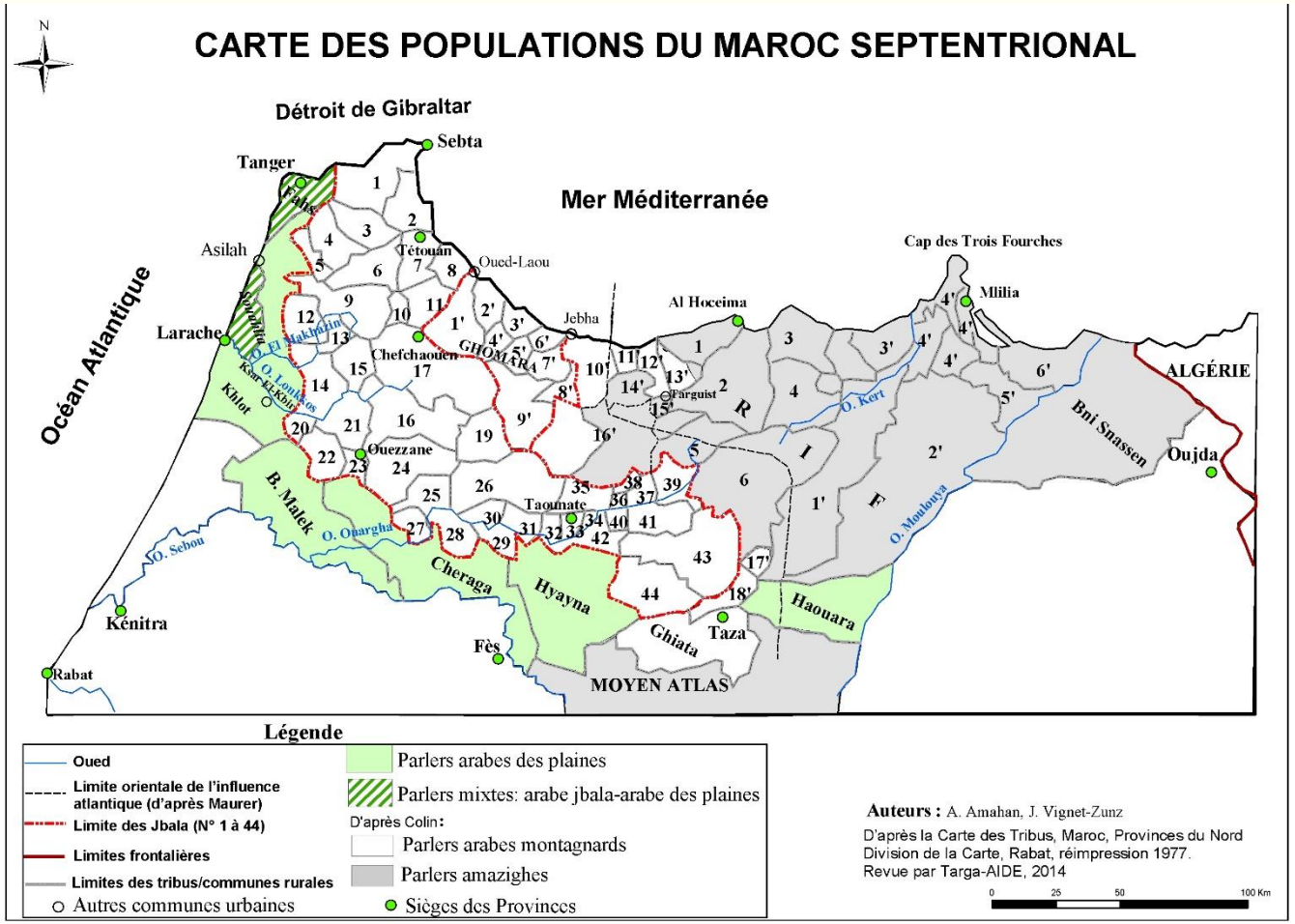
15～16世紀グマーラ山地の知識人ネットワーク形成
– DHの手法を用いた可視化の試み

2022年度日本中東学会（オンライン）

篠田　知暁
ILCAA 特任研究員

グマーラ地方とは？


CARTE DES POPULATIONS DU MAROC SEPTENTRIONAL
N
Détroit de Gibraltar
Mer Méditerranée
Océan Atlantique
Sebta
Tanger
Tétouan
Oued-Laou
Asilah
Larache
Chefchaouen
GHOMARA
Jebha
Al Hoceima
Cap des Trois Fourches
Mlilia
ALGÉRIE
Oujda
Bni Snassen
Taourirt
Ouezzane
Khlot
B. Malek
Cheraga
Hyayna
Taouarate
Ghiata
Taza
Haouara
MOYEN ATLAS
Fès
Kénitra
Rabat
O. Sebou
O. Ouargha
O. Loukkos
O. El Makhazin
Ksar el Kbir
O. Kert
O. Moulouya
Légende
Oued
Limite orientale de l'influence atlantique (d'après Maurer)
Limite des Jbala (N° 1 à 44)
Limites frontalières
Limites des tribus/communes rurales
Autres communes urbaines
Parlers arabes des plaines
Parlers mixtes: arabe jbala-arabe des plaines
D'après Colin:
Parlers arabes montagnards
Parlers amazighes
Sièges des Provinces
Auteurs : A. Amahan, J. Vignet-Zunz
D'après la Carte des Tribus, Maroc, Provinces du Nord
Division de la Carte, Rabat, réimpression 1977.
Revue par Targa-AIDE, 2014
0
25
50
100 Km

グマーラ地方の知識人ネットワーク

- 報告者の最近の課題

  15世紀から17世紀にかけてのグマーラ地方の部族社会における法的規範のイスラーム化

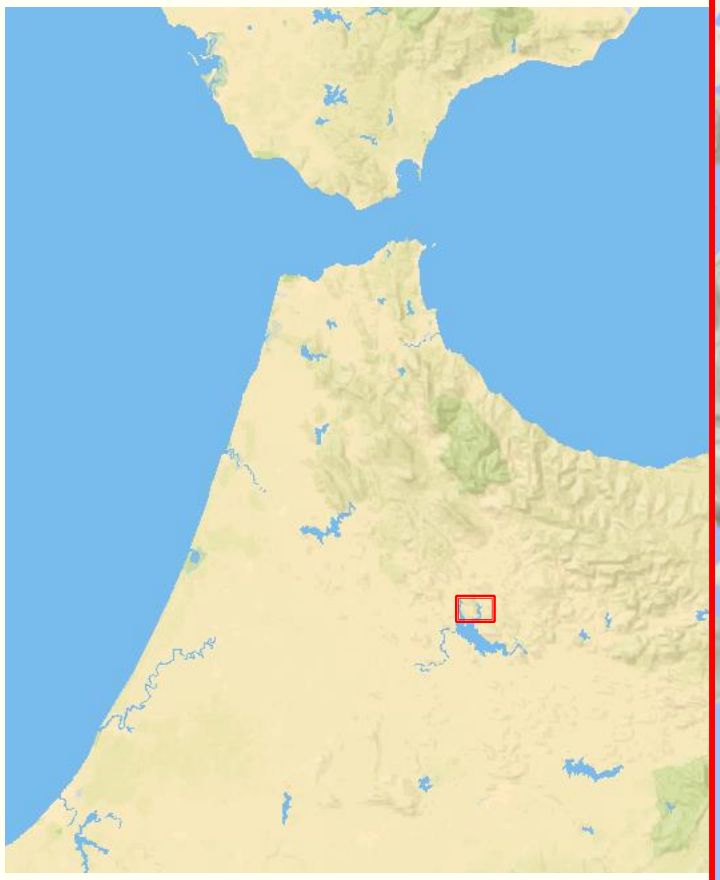
  …16世紀前半のビドア排斥運動や17世紀初頭の駆け落ち騒動に関する記録は、グマーラ地方各地の山村に宗教的な知識を身につけた人々が多数おり、ネットワークを形成していたことを示している

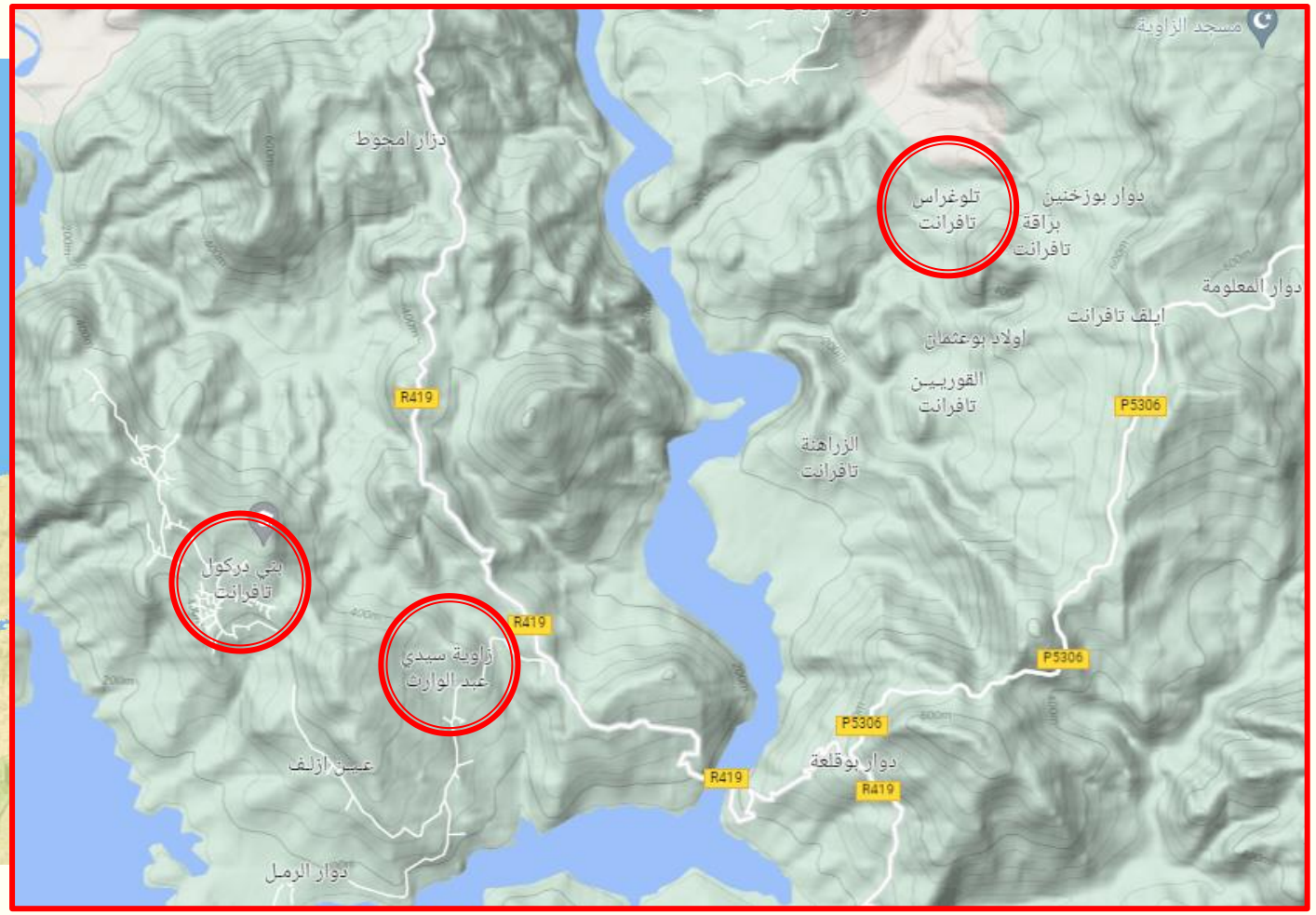
→いつごろ、どのように形成されたのか？

「知識人の山」論

- 山地の部族民の間で活動する知識人の重要性
  （Mezzine & Vignet-Zunz 2014; Vignet-Zunz 2011）
  - 平野に比べて安定した環境と交易路の存在によって、山地は多くの知識人が居住する土地となりうる
  - グマーラ地方は「知識人の山」
    古代から地中海沿岸に多数の港市が存在
    地中海とフェズを結ぶ交易路上に位置する
    Cf. Voguet (2017)…トランスサハラ交易路の存在がオアシス都市をマーリク派法学の拠点に
    聖者崇敬の伝統やジハード意識の高さも要因？

グマーラ地方の小規模な知的拠点の一例：ターラーワグラース





小規模な知的拠点の存在：ターラーワグラース

- アブー・アンナジャー・サーリム・ザッダーニー・シャーウィー
  1465年頃内戦を逃れてフェズから移住
  フェズのマドラサで法学を学んでおり、モスクのイマームを務める
- アブドゥルワーリス・ヤールスーティー（1483/84～1561）
  アブー・アンナジャーの弟子でウラマーでスーフィー
  ターラーワグラースから6キロほどのバヌー・ダルクールに墓とザーウィヤ
- ムハンマド・ニージー（1540/41～1621）
  ヤールスーティーの弟子で詩人、スーフィズムに関する著作
  ターラーワグラースの住人

小規模な知的拠点の存在：ターラーワグラース

- 伝統的な手法でも、ターラーワグラースのような知的拠点が数世代にわたって山地に存在し、時折人名録に記録されるような知識人を輩出していたことは確認できる
- このような事例をただ羅列するだけでは、長期的なネットワークの変化という現象を把握することは困難

→同時代の伝記史料にみられる師弟関係をDHの手法を用いて可視化し、その分布と通時的な変化を可視化する

史料

- 『10世紀の師匠たちの美徳を広める者の樹形図』（*Dawḥat al-Nāshir li-Maḥāsin Mashāʾikh al-Qarn al-ʿāshir*）
  - 著者イブン・アスカル（1529～78）の師匠筋にあたる人々を中心にした伝記史料
  - 15世紀没した人々から同時代人まで、都市の法学者から山村の聖者まで様々な人物を取り上げ、奇跡譚も含め多くの逸話を蒐集

史料

- 著者ムハンマド・イブン・アスカル・シャフシャーウニー
  - シャフシャーウンのシャリーフの家系に生まれる
  - イスラーム諸学を学び、サアド朝スルターン・ガーリブとその息子のムワタッキルの治世に、モロッコ地域北西部でカーディーやムフティーの職に務める
  - 青年時代からスーフィズムにも関心を持ち、多くの師匠に師事する
  - サアド朝第内乱で廃王ムタワッキルを支持し、1578年マハーズィン川の戦いで戦死

史料

- なぜ『樹形図』なのか
  - サアド朝史の史料の中でも最も頻繁に使われてきた
  - 15～16世紀の伝記史料は年代記に比べれば豊富
    - アフマド・ワンシャリースィー（1508年没）の物故録
    - ミンタウリー（1432年没）やイブン・ガーズィー（1513年没）、マンジュール（1587年没）のファフラサ
    - 17世紀以降没した著者の伝記史料はより豊富

    …アフマド・ブン・アル＝カーディー（1616年没）、トゥンブクティー（1627年没）、アルビー・ファースィー（1642年没）などなど

史料

- メリット
  - 15～16世紀モロッコ地域北部に関する最も詳しい文献
  - 都市と地方の宗教知識人に関する情報を収録
  - 比較的短くシンプルな構成
  - 全体の傾向に関する研究は不在
- デメリット
  - 人物によって、情報の質・量の差異が大きい
  - 情報にしばしば不確かさ、あいまいさがみられる
  - あくまで16世紀の一法学者を起点にした歴史叙述

分析方法

- DHの技術を用いた知識人のマッピング
  - 可視化ツールPalladioの利用
    - 無料でシンプル
    - データはGoogleのスプレッドシートで作成
    - ノード（点、座標）とエッジ（線、点の結びつき）を記述すれば地図上に落とすことができる
    - シンプルな分、複雑な指定はできない

      →Gephi等の利用も今後検討

分析方法

- 叙述史料から分析可能なデータを作ることの問題点
  - 関係性、場所、年代、分類の決定
    - 師弟関係があったか不明な場合も多い

      独立して立項されていても、ほかの人物との関係が不明なため、可視化出来ない場合も

      →「～から学んだ」等明記されている場合に限定
    - 地理的情報に乏しい人物が多数存在

      墓の場所や名前しか分からない、放浪の生涯、等々

      →できるだけ出身地に近い活動地域を選ぶ

      →どうしてもわからない場合は師匠と同じにする

分析方法

- 叙述史料から分析可能なデータを作ることの問題点
  - 地名の特定もしばしば困難
    非常に細かい地名や、逆に非常に大まかな地名
    →ある程度大きなまとまりや中心的な都市で代表
  - 没年
    ほとんどの人物は没年しかわからない
    没年についても、年代しか分からない人物が多数
    →ヒジュラ暦10年刻みで集計
    →没年もわからない場合は、師匠/弟子から30年ずらす

分析方法

- 叙述史料から分析可能なデータを作ることの問題点
  - 登場人物をウラマー型/ワリー型/双方型に分類する
    …どうしても解釈に恣意的な要素は含まれる
    著者の、特に各人物の記事冒頭での描写を重視
    「ワリー」「明白な奇跡を為した人」「神智者」
    「法学者」「大学者」「カーディー」「ムフティー」（等々）
    教授していた分野や本の名前が明記されていることもある
    名前しかわからない場合は、師匠/弟子に揃える

全体の関係

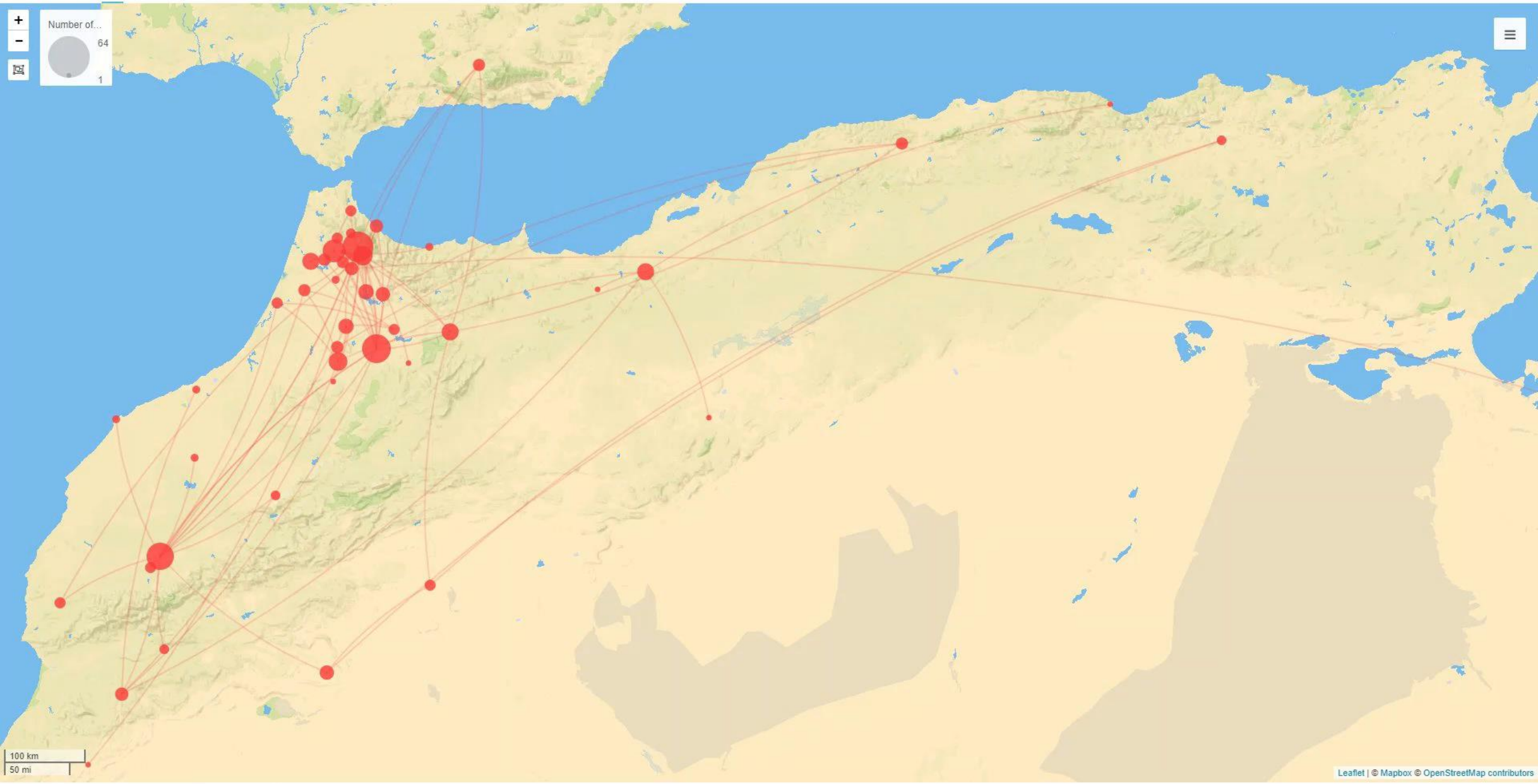
『樹形図』に登場する人物のうち、他の人物との関係が明記されている人物の関係全体を可視化

1はジャズーリー
2はイブン・アラファ
両者以前は分析では省略

人物数　153件
関係数　208件

ワリー型　72件
ウラマー型　59件
双方型　17件
その他　5件

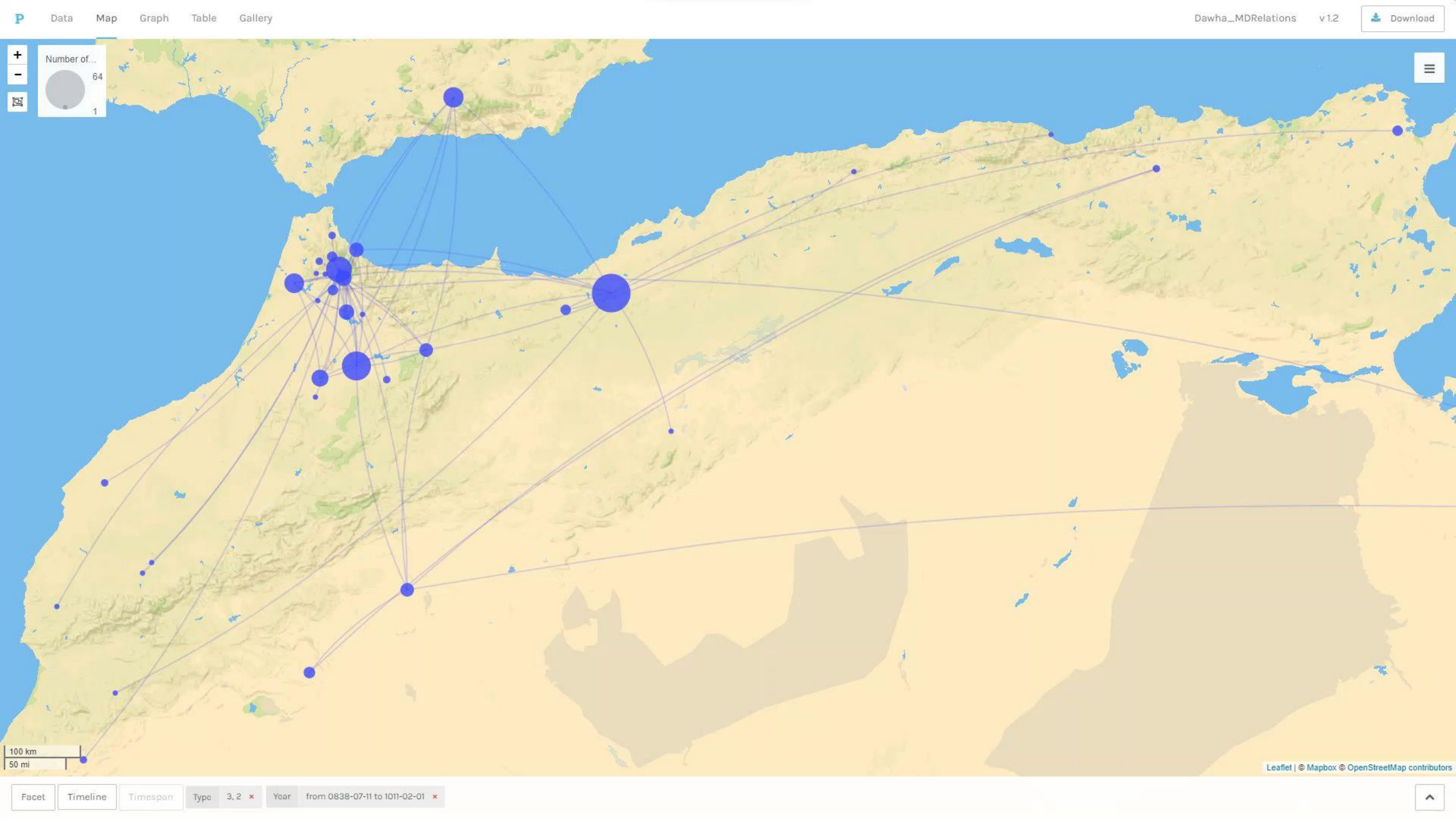
P Data Map Graph Table Gallery Dawha_MDRelations v 1.2 Download



Facet Timeline Timespan Type 1, 3 × Year from 0857-10-02 to 1011-02-01 ×

ワリー型知識人の分布

- ワリー型知識人は南から北へ
  - シャーズィリーヤ＝ジャズーリーヤの人々が中心
  - モロッコ地域の南部から北部へ拡大
  - 10世紀半ば没の世代まで山地への進出は見られない
  - 都市以外の平野部にもネットワークが拡がる
  - リーフ山脈東部への言及はほとんどない

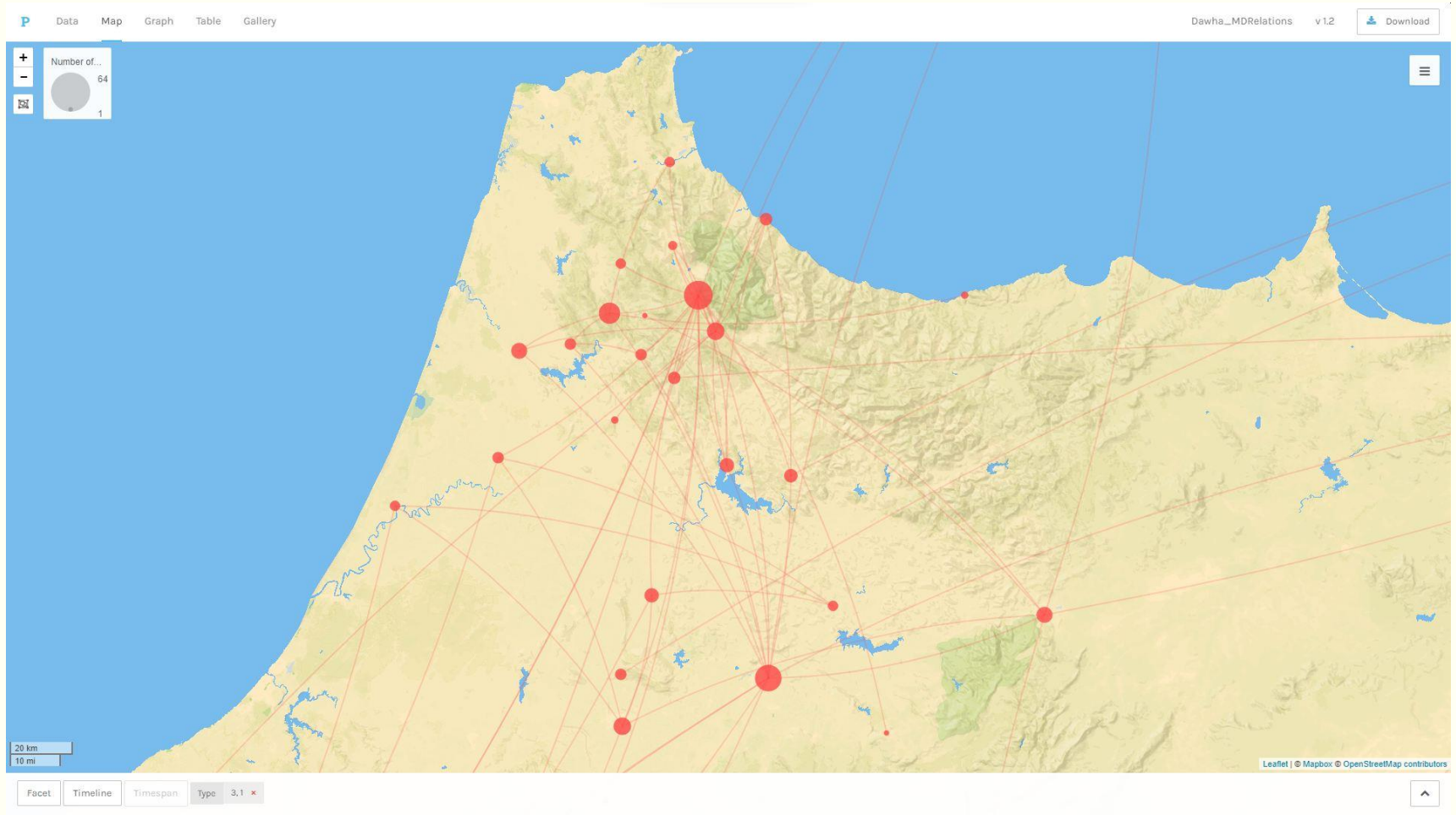

P
Data
Map
Graph
Table
Gallery
Dawha_MDRelations
v 1.2
Download
Number of...
64
1
100 km
50 mi
Leaflet | © Mapbox © OpenStreetMap contributors
Facet
Timeline
Timespan
Type
3, 2
Year
from 0838-07-11 to 1011-02-01

ウラマー型知識人の分布

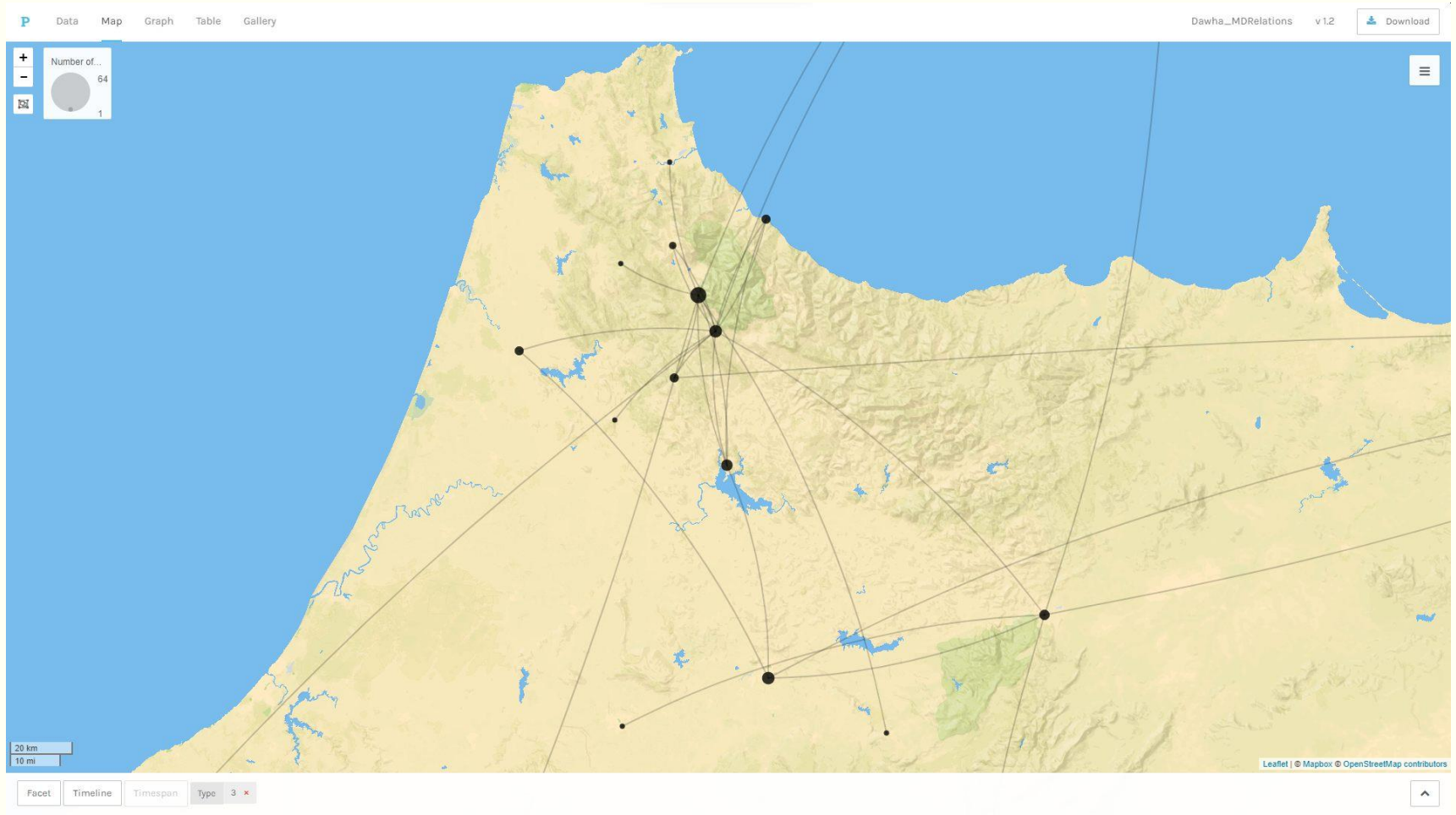
- ウラマー型知識人は東西の結びつき
  - フェズとトレムセンとの関係が強い

    16世紀中葉オスマン朝のアルジェリア西部征服を受けて、トレムセンのウラマーがサアド朝領へ流出したことを反映
  - ワリー型同様、10世紀半ばまで山地への進出はわずか
  - 平野部や南部出身のウラマーはわずか

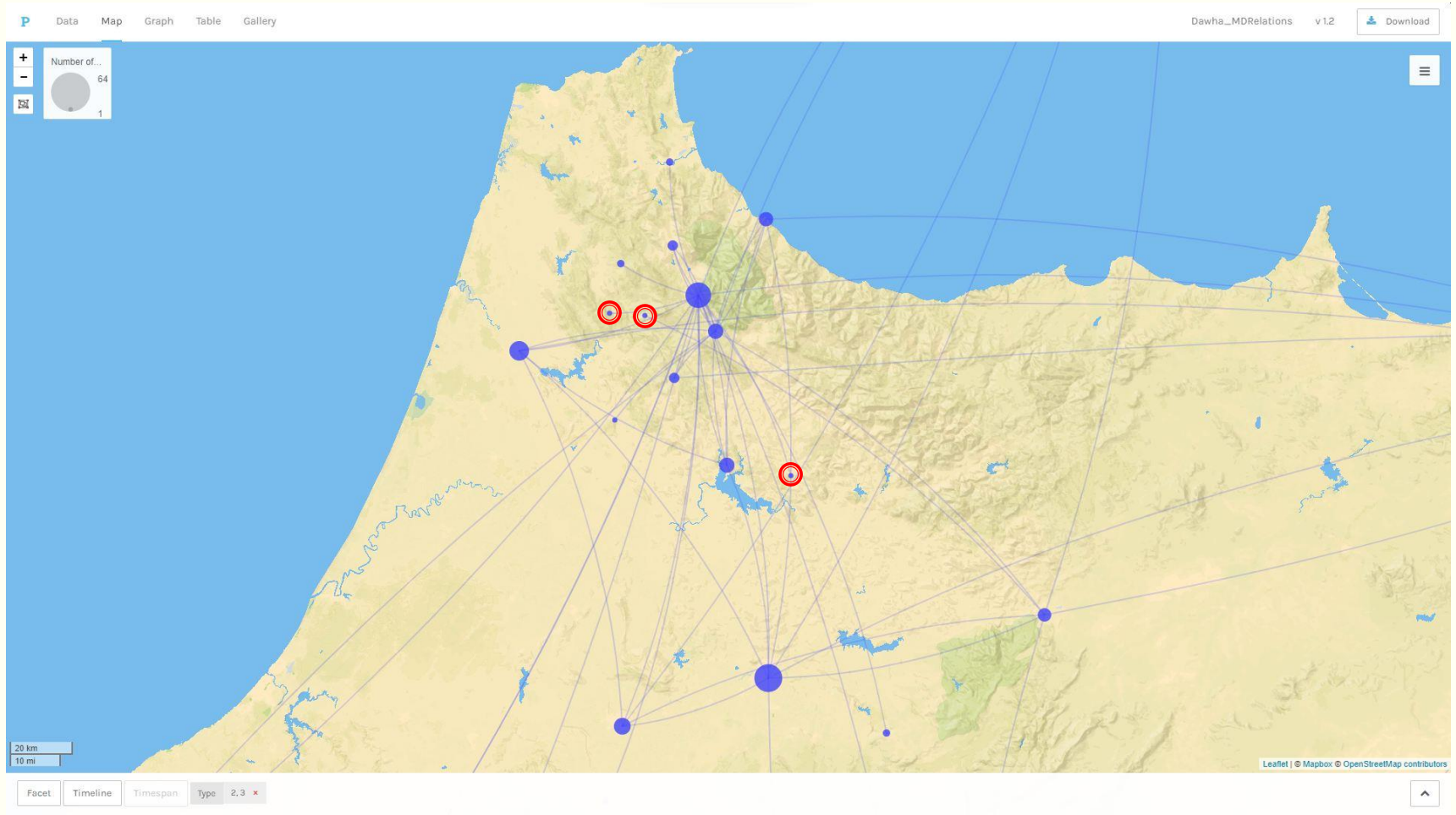
グマーラ地方の双方型知識人



グマーラ地方の双方型知識人



グマーラ地方の双方型知識人



考察

- 16世紀前半グマーラ地方の各地で多くの知的拠点が形成
  - ヒジュラ暦10世紀半ば没の世代が山地で活動
  - ネットワークの分布はワリー型とウラマー型で相違
  - ウラマー型は都市と山地で活動（×平野）
  - 山地で活動するウラマー型はしばしば場合ワリー型を兼ねる

→部族社会における法的規範のイスラーム化の人的インフラ

考察

- 「知識人の山」論は交易路の存在を重視
- 15世紀を通して北西部の沿岸はポルトガル王国に占領
  - 山地の各地に多くの知的拠点が存在
  - 境域でのジハードが知識人を引き寄せる？

    『樹形図』によれば、法学者ワルヤーグリーは、冬と春はカスル・カビールのマドラサで教授、夏と秋はハバト地方の境域に駐留していた
  - 境域での経済活動

    アルビー・ファースィーによれば、ワッタース朝期のカスル・カビールは「商業の目的地であり、両岸の物品や商品がもたらされる市場であった」

    16世紀の半ばには、ムスリムもポルトガル王国の支配領域で経済活動に従事（Shinoda 2019）

主な文献

Ibn ʿAskar, Muḥammad al-Shafshāwunī. 2003. *Dawḥat al-Nāshir li-Maḥāsin Mashāʾikh al-Qarn al-ʿĀshir*, edited by Momamed Hajji. Casablanca: Manshūrāt Markaz al-Turāth al-Thaqāfī al-Maghribī.

Al-ʿArbī al-Fāsī, Muḥammad. 2008. *Mirʾāt al-Maḥāsin min Akhbār al-Shaykh Abī al-Maḥāsin*, edited by Muḥammad Ḥamza b. ʿAlī al-Kattānī. Casablanca: Markaz al-Turāth al-Thaqāfī al-Maghribī; Bayrūt: Dār Ibn Ḥazm.

Hajji, Mohammed. 1977. *L'activité Intellectuelle Au Maroc à L'époque Sa'dide*. 2 vols. Rabat: Dar el Maghrib.

Lévi-Provençal, Evarist. 2001. *Les Historiens Des Chorfa: Essai Sur La Littérature Historique et Biographique Au Maroc Du XVIe Au XXe Siècle; Suivi de La Fondation de Fès*. Paris: Maisonneuve et Larose.

Mezzine, Mohamed, and Jacques/jawhar Vignet-Zunz. 2014. "Retour Sur Les Sociétés de Montagne Au Maghreb :fuqahā' et Soufis Du Bilād Ghumāra (XIe-XVIIe Siècles) à L'épreuve Des Réformes de La Pratique Religieuse." *Revue Des Mondes Musulmans et de La Méditerranée* 135: 77–98.

Shinoda, Tomoaki. 2019. "The 1538 Peace Treaty and Conflict over the Control of the Frontier in Northern Morocco." *Mediterranean Historical Review* 34 (2). https://doi.org/10.1080/09518967.2019.1670977.

Shinoda, Tomoaki. 2021. "The Campaign against Conjugal Bidʿa in Northern Morocco during the Sixteenth Century." *Al-Qanṭara* 42 (1): e08.

Vignet-Zunz, Jacques/jawhar. 2011. "Montagnes Savantes : Une Récapitulation." Insaniyat / إنسانيات, 53: 95–114.

Voguet, Élise. 2017. "Tlemcen-Touat-Tombouctou : Un Réseau Transsaharien de Diffusion Du Mālikisme (fin Viii/xive-Xi/xviie Siècle)." *Revue Des Mondes Musulmans et de La Méditerranée,* 141: 259–79.